

平成24年度病害虫発生予報第3号

平成24年6月4日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	前年の穂いもち発生量は平年並 5月下旬現在、発生を確認して いない(平年並) 6月の降水量は平年並	± ± ±
	紋枯病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並	±
	縞葉枯病	やや少ない	全域	抵抗性品種の栽培が多い ヒメトビウンカの発生量は平年 並 ヒメトビウンカの保毒虫率は平 年並	- ± ±
	ニカメイガ	平年並	全域	予察灯およびフェロモントラッ プにおける誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イネミスゾウ ムシ	やや少ない	全域	5月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	- ±

・留意事項

イネいもち病は気温20～25で降雨が続くと発生が多くなります。発生を確認したら、速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

ムギ類では、収穫期の降雨が赤かび病の発生を助長します。収穫期を迎えたほ場から、速やかに収穫しましょう。

ムギ類栽培ほ場において、ミナミアオカメムシの発生量が多くなっています。ムギ類の収穫後は他作物に移動する可能性が高いので注意しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	+ ±
	黒点病	やや少ない	全域	孢子形成量はやや少ない 6月の降水量は平年並	- ±
	ミカンハダニ	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並	±
	アブラムシ類	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	-
	チャノキイロ アザミウマ	やや多い	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量はやや多い 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	+ ±
ナシ	黒星病	多い	全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並	+ ±
	アブラムシ類	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	-
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	+ ±
	黒星病	やや多い	全域	4月の発病枝率はやや多い 6月の降水量は平年並	+ ±
	灰星病	平年並	全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	5月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない	± -
ブドウ	べと病	平年並	全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	黒とう病	やや多い	全域	5月下旬の発生量はやや多い 6月の降水量は平年並	+ ±
	晩腐病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	全域	イヌマキにおける5月下旬の発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
カキ	炭疽病	平年並	全域	昨秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	角斑落葉病 円星落葉病	平年並	全域	昨秋の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	少ない	全域	5月下旬の発生量は少ない	-
果樹共通	カメムシ類	やや多い	全域	越冬成虫密度はやや高い 豊田市のフェロモントラップに おける誘殺数は5月中旬から増 加傾向	+ +

・防除対策

〔ウンシュウミカン・そうか病〕

被害葉、被害果は見つけ次第取り除き、園外へ持ち出しましょう。ジマンダイセン / ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

〔ナシ・黒星病〕

本日発表の「病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

〔モモ・せん孔細菌病〕

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、チオノックフロアブル、デランフロアブル、バリダシン液剤5などで防除しましょう。

〔モモ・黒星病〕

品種によっては収穫期に入るので、収穫前日数に注意し、チオノックフロアブル、デランフロアブル、バイコラル水和剤などで防除しましょう。

〔ブドウ・黒とう病〕

本日発表の「ブドウ黒とう病情報第1号」を参照してください。

〔果樹共通・カメムシ類〕

5月17日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

・留意事項

ブドウでは、べと病の発生はまだ確認していませんが、黒とう病の発生を一部のほ場で確認しています。両病害とも降雨が続くと急速に蔓延するおそれがあるので、発生を確認したら、発病葉などの除去に努めるとともに、治療効果の高い農薬を使用して速やかに防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬成虫のフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並です。有効積算温度から予測した第2世代ふ化幼虫の防除適期は、東海市で6月17日、豊田市で6月20日、豊橋市で6月19日で、昨年より2～4日早くなっています。適期を逃さないように防除しましょう。

カキにおいて、フジコナカイガラムシの発生がやや多い地域があります。有効積算温度を用いて予測した第1世代ふ化幼虫防除適期は、昨年より1～5日早い6月5日から11日です。詳細は、5月25日発表の「フジコナカイガラムシ情報第1号」を参照してください。

山林に近いウメやモモのほ場で、果樹カメムシ類の寄生を確認しました。また、開花中のカンキツ類の花に本虫が誘引されているほ場も確認しました。本虫の越冬成虫密度はやや高かったため、今後の発生状況に注意しましょう。

野菜

・留意事項

施設トマト（促成・半促成栽培）の収穫が終了する時期です。タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を伝搬します。栽培終了後は、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

施設キュウリでは、キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス（MYSV）を伝搬するミナミキイロアザミウマが発生しているほ場が見られます。次作キュウリが黄化えそ病に感染しないよう、栽培終了後、施設を密閉してミナミキイロアザミウマを死滅させ、発病株は適切に処分しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量は平年並	± ±
		多い	中山間部	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量は平年並	+ ±

・防除対策

〔キク（露地）・白さび病〕

被害葉は切除して適切に処理するとともに、ラリー乳剤やストロビーフロアブルなどで防除しましょう。なお、耐性菌の発生が心配されるため、同一系統の農薬を連用せずローテーション散布を行いましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台6月1日発表）

予想される向こう1か月の天候

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並の確率が50%です。2週目は、平年並の確率が40%です。3～4週目は、高い確率が40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：30% 平年並：30% 高い：40%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止